

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：37104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10019

研究課題名(和文) 内科診療所受診者を対象に初診時に実施するうつ状態のリスク評価の有効性

研究課題名(英文) The effectiveness of risk assessment of depression at first contact in primary care

研究代表者

藤枝 恵 (Megumi, Fujieda)

久留米大学・医学部・助教

研究者番号：80420735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：我が国の2017年の自殺者数は21,321人である。海外の研究では、自殺者の50%から87%がうつ病であったと報告されている。そこで、我々がこれまでに明らかにしたうつ状態の関連因子を用いて、うつ状態、および希死念慮の発症に対する「うつ状態のリスク評価」の発病予防効果を検討する。研究対象は、内科診療所の初診患者、または過去半年以上受診していない患者で、35歳から64歳の者とする。新型コロナウイルス(COVID-19)の度重なる流行により、内科診療所では業務量が大幅に増加した。COVID-19の流行期、非流行期では収集した情報の質に偏りが生じる可能性があり、研究実施は極めて困難であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
新型コロナウイルスの流行により研究実施は極めて困難であった。

研究成果の概要(英文)：The number of suicides in Japan in 2017 was 21,321, and depression was reported in 50% to 87% of completed suicides. However, according to one meta-analysis, almost half of depressive patients were not identified in primary care. Thus, we investigated the effectiveness of risk assessment of depression at first contact on prevention of depression and suicidal ideation. We developed the risk assessment using depression-related factors identified in our previous studies. Participants were new patients aged 35-64 years recruited from internal medicine clinics in Japan. The repeated COVID-19 outbreaks have substantially increased the workload at internal medicine clinics. Therefore, data collected from these sites during the peak pandemic period and non-pandemic periods may not show consistent quality, potentially introducing serious bias and compromising the study's validity. Consequently, conducting this research under these circumstances was very difficult and we terminated the study.

研究分野：精神医学

キーワード：自殺対策 うつ病

1. 研究開始当初の背景

我が国の2017年の自殺者数は21,321人である。海外の報告ではあるが、自殺者の50%から87%がうつ病であったと報告されている。あるメタアナリシスでは、プライマリーケアにおけるうつ病の割合は19.5%であり、そのうちのほぼ半数は診断されず見逃されていたと報告されている。また、自殺者の45%が自殺前の1か月間に、自殺者の77%が自殺前の1年以内に、内科(プライマリーケア医)を受診していたという報告もある。内科ではうつ状態が見逃されることが多いが、内科診療所の医師は自殺のリスクの高いうつ状態の患者を日常的に診察していることをほとんど意識していない。

2. 研究の目的

我々がこれまでに明らかにしたうつ状態の関連因子を用いて、初診時に「うつ状態のリスク評価」を行う。そして、初診時に「うつ状態のリスク評価」を行うことにより、どの程度うつ状態、および希死念慮等の発症を予防できるかという発病予防効果を算出する。

3. 研究の方法

研究対象は、内科診療所の初診患者、または過去半年以上受診していない患者で、35歳から64歳の者とする。慢性疾患などで常に通院している人を除くため対象者を限定する。該当者に順に調査に関する説明を行い、同意が得られれば対象者として登録し、登録時調査を実施する。登録時に、対象者を無作為に、リスク評価実施群と非実施群の2群のいずれかに割り付ける。リスク評価実施群では「うつ状態のリスク評価」を行う。また、全対象者から、性別、年齢、教育歴、飲酒、喫煙、半年以内のライフイベントなどの情報、既往歴、精神疾患を含む治療中の病気、精神疾患の家族歴、睡眠状況、うつ状態有無(うつ状態があれば程度)、希死念慮等についての情報を収集する。半年後には、全対象者に対し、うつ状態、希死念慮、精神科または心療内科の受診に関する調査を行う。統計解析ソフトを用いた多変量解析(ロジスティック回帰モデル)により、多要因の影響を補正し、うつ状態、および希死念慮に対する「うつ状態のリスク評価」の発病予防効果を算出する。

4. 研究成果

情報収集を行う予定であった内科診療所では、新型コロナウイルス(COVID-19)の度重なる流行により、流行期における患者数の増加に加え、感染症対応などが加わり、業務量は大幅に増加した。また、COVID-19の流行時期および流行の程度については事前予測が不可能であった。COVID-19の最流行期、流行期、非流行期では収集した情報の質に偏りが生じる可能性があり、研究の妥当性にも影響するため、研究実施は極めて困難であった。研究期間のさらなる延長も検討したが、研究代表者が他機関に異動することになり、研究継続不

能となったため、研究終了とした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	内村 直尚 (Uchimura Naohisa) (10248411)	久留米大学・その他部局等・学長 (37104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関